



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)鶴見研修センター新築工事	階数	地上5F
建設地	横浜市鶴見区元宮1-19-6	構造	RC造
用途地域	工業地域、準防火地域、第5種高度地区	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,880時間/年(想定値)
建物用途	事務所、ホテル	評価の段階	
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2021年5月17日
敷地面積	4,081 m <sup>2</sup>	作成者	佐々木 智之
建築面積	2,177 m <sup>2</sup>	確認日	2021年5月17日
延床面積	5,810 m <sup>2</sup>	確認者	松本 尚史



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

①参照値 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 66% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 66%

④上記+ 66%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4.0

Q1 室内環境: 3.8

Q3 室外環境(敷地内): 4.8

LR1 エネルギー: 4.7

LR2 資源・マテリアル: 3.5

LR3 敷地外環境: 3.5

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 4.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.8

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 4.0

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
横浜市鶴見区に計画された自社の研修施設である。工業と住宅が入り混じる地域特性に配慮し、敷地内に積極的に緑化を行い、節水器具の採用などを行い、環境負荷の低減に配慮した計画としている。		
<b>Q1 室内環境</b> 外壁開口を最小限とし、開口にはブラインド等の制御装置を設けることで室内の温熱環境向上に配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 建物の構造、設備システムを見せる研修プログラムの主旨に則り、配管を一部露出し、メンテナンス性に配慮。また鶴見川流域の敷地特性に配慮し、自家発電室を2階に設け、信頼性の向上に配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 建物に壁面緑化を設置、敷地内を積極的に緑化、またレインガーデンを設けるなど、生物環境の保全と創出に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 高効率な設備機器と、トップライトを導入し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 持続可能な循環型資源である木材、その中でもCLTを間仕切り壁に使用し、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 雨水流出抑制策を実施。屋根面の緑化を施し、敷地外への熱的な影響を低減。屋外照明の計画は、周囲への漏れ光にも配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



### 4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

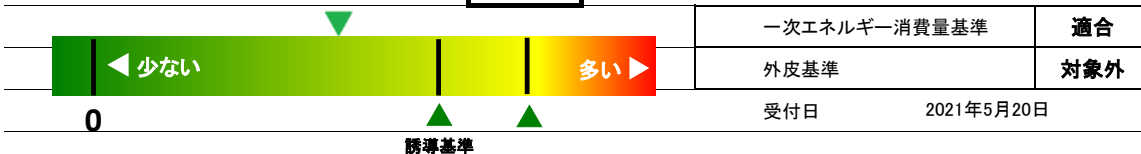
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)鶴見研修センター新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **5**

#### ■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **43** %削減



#### ■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

- ①BPI:0.68 外壁開口を抑制し、断熱性能を適切に確保することで、建物の熱負荷を抑制。
- ②トップライトによる自然採光と、トップライトを開閉することで自然換気をおこなう。
- ③高効率な設備機器を導入し、エネルギーの効率的利用に配慮。
- ④BEMS等によりエネルギー消費量の計測を行う。建物全体のエネルギー消費量の目標を設定し、コミッションングも実施予定。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 **4**

#### ■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

- ⑨外壁開口を抑制し、開口にはブラインドを設置。窓の日射遮蔽性能や外壁の断熱性能に配慮。
- ⑩照明を端末で制御・調整可能。⑪喫煙室はスラブからスラブで区画され、独立した排煙系統

#### ■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

- ⑫一人当たりのスペースが12㎡以上。階高4.5m、天井高さが2.9m以上。
- ⑬執務室については、多様なレイアウトに対応できるように計画している

#### ■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

- ⑭建物に壁面緑化を設置、敷地内を積極的に緑化。レインガーデンを設けるなど、生物環境の保全と創出に配慮している。

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **3**

#### ■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

- ⑮耐用年数が長い構造体、内装材、配管材などを採用。
- ⑰非常用発電機の採用、重要度に応じた空調の系統区分を実施。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **5**

#### ■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

- ⑱自生種の保存や鳥類の生息域の確保に配慮した計画。
- ⑲積極的に緑地を整備。前面道路沿いには桜並木を設け街並み・地域に配慮。
- ⑳道路沿いに壁面緑化を施した庇やバルコニー空間を設け、中間領域を形成。

太陽光発電などの導入



太陽光利用

エネルギーマネジメントシステム導入

BEMS

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

その他;壁面緑化への自動灌水



CASBEE横浜2017年版v.1.7  
 (仮称)鶴見研修センター新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート	実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	配慮項目	<非住宅> <集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									4.0
Q1 室内環境									3.8
1 音環境			3.5	0.15	3.2	1.00			3.4
1.1 騒音			3.0	0.40	3.0	0.40			-
1.2 遮音			4.4	0.40	3.6	0.40			-
1.2.1 開口部遮音性能			5.0	0.71	5.0	0.30			-
1.2.2 界壁遮音性能			3.0	0.29	3.0	0.30			-
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20			-
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20			-
1.3 吸音			3.0	0.20	3.0	0.20			-
2 温熱環境			3.7	0.35	3.0	1.00			3.5
2.1 室温制御			3.3	0.50	3.0	0.50			-
2.1.1 室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	3.0	0.57			-
2.1.2 外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	3.0	0.43			-
2.1.3 ソーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	4.0	0.38	-	-			-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.20	3.0	0.20			-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	5.0	0.30	3.0	0.30			-
3 光・視環境			3.8	0.25	3.0	1.00			3.6
3.1 屋光利用			4.2	0.30	4.2	0.30			-
3.1.1 屋光率	快適・働きやすさ	⑩光環境	5.0	0.60	5.0	0.60			-
3.1.2 方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-	-			-
3.1.3 屋光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	3.0	0.40			-
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30			-
3.2.1 屋光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	3.0	1.00			-
3.3 照度	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.15	1.0	0.15			-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	5.0	0.25	3.0	0.25			-
4 空気質環境			4.5	0.25	4.6	1.00			4.5
4.1 発生源対策			5.0	0.50	5.0	0.63			-
4.1.1 化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	1.00	5.0	1.00			-
4.2 換気			3.3	0.30	4.0	0.38			-
4.2.1 換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	0.38	4.0	0.50			-
4.2.2 自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.24	4.0	0.50			-
4.2.3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.38	-	-			-
4.3 運用管理			5.0	0.20	-	-			-
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	0.36	-	-			-
4.3.2 喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	0.64	-	-			-
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-			3.6
1 機能性			4.3	0.40	4.6	1.00			4.4
1.1 機能性・使いやすさ			3.4	0.40	5.0	0.60			-
1.1.1 広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.24	-	-			-
1.1.2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.24	5.0	1.00			-
1.1.3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.52	-	-			-
1.2 心理性・快適性			5.0	0.30	4.0	0.40			-
1.2.1 広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.24	3.0	0.50			-
1.2.2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.24	-	-			-
1.2.3 内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.52	5.0	0.50			-
1.3 維持管理			5.0	0.30	-	-			-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.50	-	-			-
1.3.2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.50	-	-			-
2 耐用性・信頼性			3.2	0.30	-	-			3.2
2.1 耐震・免震			3.0	0.50	-	-			-
2.1.1 耐震性	防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-			-
2.1.2 免震・制振性能	防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30	-	-			-
2.2.1 躯体材料の耐用年数	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.20	-	-			-
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性			4.0	0.20	-	-			-
2.4.1 空調・換気設備	防災	⑯信頼性	5.0	0.20	-	-			-
2.4.2 給排水・衛生設備	防災	⑯信頼性	4.0	0.20	-	-			-
2.4.3 電気設備	防災	⑯信頼性	3.0	0.20	-	-			-
2.4.4 機械・配管支持方法	防災	⑯信頼性	3.0	0.20	-	-			-
2.4.5 通信・情報設備	防災	⑯信頼性	5.0	0.20	-	-			-
3 対応性・更新性			3.7	0.30	1.0	1.00			2.9
3.1 空間のゆとり			4.2	0.22	1.0	1.00			-
3.1.1 階高のゆとり			5.0	0.60	1.0	1.00			-
3.1.2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	-	-			-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.22	-	-			-
3.3 設備の更新性			3.8	0.57	-	-			-
3.3.1 空調配管の更新性			4.0	0.20	-	-			-
3.3.2 給排水管の更新性			4.0	0.20	-	-			-
3.3.3 電気配線の更新性			5.0	0.10	-	-			-
3.3.4 通信配線の更新性			5.0	0.10	-	-			-
3.3.5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-			-

# CASBEE<sup>®</sup>横浜 | 評価結果 | 3-020



CASBEE横浜2017年版v.1.7  
 (仮称)鶴見研修センター新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-		



CASBEE横浜2017年版v.1.7  
(仮称)鶴見研修センター新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート 実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	<非住宅> <集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		-	0.30	-	-	<b>4.8</b>
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり ⑩生物環境の保全と創出	5.0	0.30	-	-	5.0		
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり ⑨まちなみ・景観への配慮	5.0	0.40	-	-	5.0		
3 地域性・アメニティへの配慮		4.5	0.30	-	-	4.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり ⑫地域性への配慮	5.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ ⑭敷地内温熱環境の向上	4.0	0.50	-	-	-		
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>4.0</b>		
<b>LR1 エネルギー</b>		-	0.40	-	-	<b>4.7</b>		
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能 ①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	5.0		
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能 ②自然エネルギー利用	4.0	0.10	-	-	4.0		
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能 ③設備システムの高効率化	5.0	0.50	-	-	5.0		
4 効率的運用		4.0	0.20	-	-	4.0		
集合住宅以外の評価		4.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-		
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	5.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価		-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	-	-	-	-	-		
<b>LR2 資源・マテリアル</b>		-	0.30	-	-	<b>3.5</b>		
1 水資源保護		3.8	0.20	-	-	3.8		
1.1 節水		4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無		4.0	0.70	-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減		3.5	0.60	-	-	3.5		
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.13	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	-	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.25	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.25	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.13	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.25	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3		
3.1 有害物質を含まない材料の使用		4.0	0.30	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	-		
1 消火剤		-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	-		
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	-		
<b>LR3 敷地外環境</b>		-	0.30	-	-	<b>3.5</b>		
1 地球温暖化への配慮		4.3	0.33	-	-	4.3		
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0		
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	-		
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-		
3 交通負荷抑制		4.0	0.25	-	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮		3.3	0.33	-	-	3.3		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-		
1 騒音		3.0	0.33	-	-	-		
2 振動		3.0	0.33	-	-	-		
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	-		
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-		
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	-		
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制		4.7	0.20	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-	-		
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		4.0	0.30	-	-	-		
<b>上記以外の重点項目</b>								
<事務用途>								
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ ⑬知的生産性向上への取組	5.0	-	-	-	-		
<住宅用途>								
健康と安心								
1 化学汚染物質の対策	健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-		
2 適切な換気計画	健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-		
3 結露・カビ対策	健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-		
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心 ⑦防犯対策	-	-	-	-	-		